

題 言

新銳に輝く關西の港灣工事

四面還海の我國に於て、海工學の不振なりし事よ。

それが僅かに數十年間にして今日の盛大となつた。先輩技術家が心血を注いで來た日本の港灣工事も今日漸く芽が吹いて來たわけである。記者は特に關西工事特輯號に於て此の感を深くするものである。

○

それは恰も雲表に聳ゆる連峰の如く、關西各地の港灣工事は何れも權威ある特殊設計に依つて鋭峰を競ふの有様である

○

先づ大阪市港灣部の第二次修築工事を初め尼崎築港株式會社の工事、内務省神戸土木出張所の港灣工事、神戸市の港灣工事及び本號に收むるを得ざりしものに、住友系の大阪北港土地會社の工事あり、神戸に山下系の阪神築港會社の工事及び其他數ヶ所の埋立工事等がある。

○

大阪港第二次工事の繫船岸壁の如きは基礎杭の長約百尺に及び、將に難工事中の難工事である。其所にシートパイル、鐵筋コンクリート等を巧に利用して適切なる施工が行はれつゝある。(本號 頁圖面参照)

○

尼崎築港會社の工事に於ては基礎工費を輕減するの一方法として、防波堤基礎の泥土層中に砂を注入して軟弱なる土質を補強する如きも妙案と言ふべく。(本號 頁圖面参照)

○

其他の各港灣工事何れも新進の技術家を擁して、各其特色を發揮せるの觀は到底本號一冊に收むべくもない。

○

特に民間港灣工事は埋立を主とする關係上

何れも強力なるサクシヨン・ドレッチャーを利用し、其の埋立原料となるべき砂を求むるの難易は直に工事の死活を制するものである。隨つて關西港灣工事の爭覇戰は、將に砂の爭奪戰となり、淀川尻に砂の爭議が勃發する奇觀を呈するやも計り難いとさへ見られてゐる

○

此等の民間港灣事業に關係せる技術家としての中心人物は、北港土地に林千秋氏あり、尼崎築港に岡部三郎氏あり、阪神築港に三好貞七氏あり、何れも内務省系の俊才として知られたる人々である。

○

林氏は北海道廳土木部に在りて、留萌港の大防波堤工事を擔當し、特に氏の波力の研究論文は著名なるものとされてゐる。

○

岡部氏は内務技師として信濃川の自在堰、横濱港の岸壁、大阪市の可動堰等の設計を以つて知られた新人博士の一人である。一昨年内務省より東京市橋梁課長に轉じ、隅田川の可動橋設計問題に花を咲して間もなく、淺野系の民間會社に入つたものである

○

三好貞七氏は内務技師として港灣工事の老練家である。特に長崎港及び鹿兒島港等の岸壁にコンクリート・ケーソンの二段積施工に成功し、工費節減の能率的研究家として知られてゐる。

○

總て良き工事には良き技術家が思ふ存分の腕を振はねばならぬ。以上の諸氏は官吏を止めて唯物質的に恵まれてゐる事のみを以て満足する様な老境でもない。實に今後の關西に於ける民間港灣工事は種々なる意味に於て括目すべきものがある。